

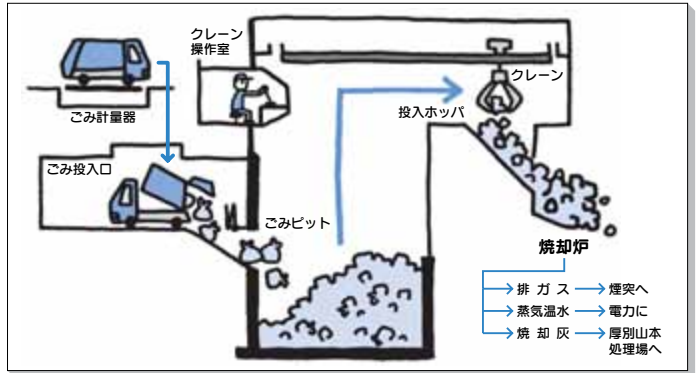
～「燃やせるごみ」のゆくえ～



2



1



5



4



3



8



7



6

燃

やせるごみを焼却処理している駒岡清掃工場（写真①）。南区全域のほか、中央・豊平・清田区の一部のごみが運び込まれ、その量は、一日に600～800トンにのぼります。

各ごみステーション（南区内に二千六百七十三カ所）からごみを集めた収集車は、最初に同工場のごみ計量所を通り、ごみの重さを計量（②）。これにより、ごみの搬入量を常に把握し、計画的な焼却処理を行います。ごみの計量を終えた収集車は投入ステージに移動し「ごみピット」にごみを投入（③）。ごみピットには大量のごみがたまりま

◆ ◆ ◆

す。同工場の高橋克義運輸係長（なかはし かつよし）は「燃焼管理が一番苦労するところですね。水分を多く含むだ生ごみを焼却すると一気に燃焼温度が下がってしまいます。生ごみは、家庭で水切りをすると軽くなる上に、においが出にくくなりますので、ぜひご協力ください。また、ほとんどの方はルールを守って排出されていますが、ごく一部にはスプレー缶やカセットボンベなどを『燃やせるごみ』として排出する方もいます。ごみ収集車やごみピットでの火災につながりますので、絶対によめましょう」と協力を呼び掛けていました。

◆ ◆ ◆
ごみピットの中でごみは、クレーンでUFOキャッチャーのように持ち上げられて、十数メートルの高さからピット内に落とされます（⑤～⑥）。こうすることで、攪拌・均一化されたごみが、焼却炉に入れます（⑦）。

◆ ◆ ◆

駒岡清掃工場は、整備期間以外は24時間体制で焼却炉を運転。焼却炉では、有害物質

